



アメリカに1人で買付けに行き、 自分の目で選んでくる。

おや、こんなところに歯科医院が……それにしても時代を感じさせる建物だなあ、と通り過ぎようとした人が立ち止まる。どうやら洋服を売っているようだ。「こだわりの1軒」という言葉が思い浮かび、つい覗いてみたくなる。それが笹本佳奈さんの店だ。「朴訥^{ほくどつ}」という店名もどこか妖しく響く古着屋である。

東京で生まれ育った。湯梨浜には2016年に初めて訪れた。鳥取県そのものが初めて踏む土地だった。ちょっとつらいこと、自分の力で乗り越えなければならぬことがあって、そういう旅。ゲストハウス「たみ」で掃除を手伝いながら、1カ月滞在する。ミニ移住だ。元気になって1年後、懐かしい「たみ」を再訪した。経営者である三宅さんが親身になってくれ、思いがけない流れとなった。空き家となっている古い歯科医院。そこを簡単に改装し、ずっと考えてきた古着屋を始める。

診療室などの表示もそのまま残っていて、それが不思議な空間を感じさせる。なにやら、「人のこころの内面と深く関わる衣服」といったことを思い浮かべてしまうのだ。「順風満帆とはとても言えません。きびしいです」

若き店主は言うが、度胸はすわっている。アメリカにたった1人で買付けに行き、自分の目で選んできたものを並べる。きつといつの日か、「名物古着屋」として町に定着するにちがいない。

古着屋 朴訥
笹本佳奈

ゆ
う
ゆ
う、

ゆ
り

は
ま

